漆・角偉三郎と有伊

2020年 5月9日.土 — 5月17日.日

OPEN 11:00—18:00　定休日13日(水)

コロナウィルスの終息を願い、できることは何かと頭を悩ませています。今展は、連休を避け、会期を一週間遅らせることに致しました。会期中は、お客様が重なることのないよう、事前アポイント制とさせて頂きます。当日でも結構ですので、お電話でご連絡頂けましたら、空いているお時間をお知らせいたします。

・角偉三郎さんが亡くなって15年。
有伊君が菜の花で陶芸の初個展をやった後、漆の世界に入って17年。この二人の作品を見てみたいと思った。親子ってどうなんだろう。有伊君は偉三郎さんを尊敬し、その作品の修理をし続けてきて、親の仕事のありかたを改めて感じている。すごい親父をもったために、大変だったにちがいない。同じようにできたとしても、しっかり丈夫にできたとしても、自分の世界は別だと思うようになっているのではないか。少しずつ自分らしい世界が生まれてきているようだ。それがどことは言えないが、色合いの深さだったり、思いきりの良さだったり…。急須の大胆な形がオブジェになっているのもおもしろい。

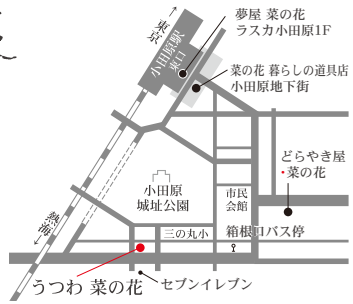
今も偉三郎さんの作品を手にすると、感性やひらめき、合鹿椀の形の完成度がひしひしとこちらに迫ってくる。しかし偉三郎さんのもつ、とどまるところのないその果てまでの全体像が、まだ僕には見えていないと思う。何回も隣で話を聞いたが、聞くべきことを聞いていなかった。亡くなる前の半年は、毎月訪ねたのに、話すべきことを話していなかった。やるせない。亡くなってから知ったが、最後の最後まで、何かを求めて沖縄に行ったらしい。がっくりきて帰って来たというのだが、それがどうしてだったのかは、家族も聞いていないという。
彼が作品を包んで送ってくれた折の、印のないつづられた文章の和紙は、捨てられずに手元に在る。いつかこれも、甦ってくるように思える。生きかえって僕に乗り移ってくるということ。何か伝わってくるかもしれないということ。

2020.4.20 高橋台一

うつわ 菜の花

小田原市南町1-3-12
電話0465-24-7020

小田原駅東口より箱根方面へ向かうバス利用
[箱根口]バス停下車徒歩2分
セブンイレブン向かい側



だるま椀 大小

合鹿椀

安子椀小漆文

丸盆木地呂側布目

金箔桶 小

角銚子 朱(つの)

朱盃形　中　すぐろ目　内外根来

長手八角二段重

長手二段弁当

長手二段重 朱

角盆雨だれ

菜盆布目

菜盆布目

長手八角盆 布目

へぎ板

角 有伊（かど　ゆい）プロフィール

1968年　石川県輪島に生まれる
1986年　九谷焼窯元　四代目須田菁華に師事
1993年　常滑市にて作陶
1996年　うつわ菜の花にて初個展。以後、個展を中心に活動。
2003年　父、角 偉三郎のもと、角漆工房で漆の制作に入る
2005年　角漆工房代表となる。各地にて個展、グループ展を開催。